

Ⅲ 募集のお知らせ

<2>2020年度春季研究発表会（2020年6月13日〔土〕・14日〔日〕、慶應義塾大学三田キャンパス）におけるワークショップのテーマ案募集

ワークショップは必ずしも結論を出すことが目的ではなく、参加者の自由な討論から、多角的な視点や知見を得ることを目的としています。したがって、(1)ある研究テーマについて複数の会員が最新の知見を提示し、議論を重ねる（いわゆる「テーマセッション」）だけではなく、(2)今後発展が期待される課題や新しい問題を掘り起こすようなテーマについて、複数の会員が討議する（いわゆる「ラウンドテーブル」）ものでも結構です。

ワークショップの登壇者は、司会者1名、問題提起者1名の2名体制を原則とします。ただし、討論者や複数の問題提起者を設けたい場合は、必要性、候補者の人選の理由を、テーマ案要旨のなかで簡潔に説明してください。また、「問題提起者」「討論者」とは異なる形で登壇者を設定したい場合は、その理由も付したうえで、ご応募ください。

※テーマ案の応募件数、テーマ案の内容、開催校の事情を総合的に判断して、企画委員会がスケジュール（一日目か二日目か、午前か午後かなど）を編成しますので、120分程度で実施可能なテーマ案をご提案ください。

※企画委員会で検討のうえ、登壇者の数その他について、ワークショップ企画者の方にご相談することもあります。

1. 提案者資格

- (1)日本マス・コミュニケーション学会会員であること。
- (2)応募の時点で、応募年度までの学会費を完納していること。

※応募の採否、及び採用された場合のスケジュール（1日目か2日目か、午前か午後か等）や発表順序などについては、企画委員会にご一任願います。

2. テーマ

本学会の趣旨に沿ったものであること。

※個人や団体・組織等の名誉を著しく毀損したり、無用に個人情報を開示したりするものは、採択いたしません。

3. 応募要領

日本マス・コミュニケーション学会のサイト <http://www.jmscom.org/> から「ワークショップへの応募文書」(Word ファイル)をダウンロードして、同文書に記載されている1～6の項目すべてについて、【留意事項】を遵守して記入し、記入済みのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と応募締切は次のとおりです。

※記入されていない項目があったり、【留意事項】が守られていない場合は、採択を不可とすることがありますのでご注意ください。

[送付先及び応募締切]

送 付 先：国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email : mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-6824-9377)

応募締切：2020年1月31日(金) ※必着厳守(受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。なお、受領確認メールは自動応答システムによって送信されるものではありません。)

※採否は、3月末までにお知らせします。

4. 注意事項

- ・今大会につきましては、ワークショップは二日目の午後とは限りません。研究発表会開催期間中のどの時間帯でも発表可能であることを、応募の前提といたします(登壇日程の希望は受け付けません)。研究発表会期間中のどの時間帯に配置されるかは、企画委員会および理事会にて決定いたします。
- ・登壇者に複数の所属機関がある場合は、応募用紙には一つのみ記入してください。なお、プログラムや会報等には応募用紙記載の所属機関を記載しますが、ワークショップの際に、配布資料やパワーポイント等に複数の所属機関を発表者自身が記載することは、構いません。
- ・採用されたテーマについて、「要旨」の加筆修正をお願いする場合があります。
- ・レジュメ、資料等は発表者が所定の部数を用意して、発表当日に会場に持参してください(事前の資料送付は受け付けません)。開催校・学会事務局ではコピーを受け付けませんので、ご注意ください。
- ・研究発表会直前になっての視聴覚機器利用の新規申し込みは、開催校に対して大きな負担をかけることとなりますので、利用の有無は応募時点で確定してください。
- ・応募が採用された場合、応募文書のなかの「キーワード」と「発表要旨」を会報・プログラム・学会ホームページに掲載します。応募書類締め切り以降の修正は認められません。

- 一つの研究発表会における個人・共同研究発表とワークショップ、およびポスターセッションにおいて複数のエントリーをすることは、原則的にご遠慮ください（「個人共同研究発表、ワークショップ、ポスターセッションのうち、複数へのエントリー」および「個人共同研究発表、ワークショップ、ポスターセッションのいずれか1つにおいて、複数件の応募・登壇をすること」は、原則的に認められません）。
- 英語によるワークショップも受け付けます。その場合には「キーワード」「テーマ案要旨」も英語で作成していただきます。
- 現在、ワークショップの司会者・問題提起者・討論者は、日本マス・コミュニケーション学会会員に限らせていただいております（研究部会による特別な企画を除く）。つきましては、非会員の方は入会手続きをしていただきますようお願いいたします。